

## 令和4年度 第1回「甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会」議事録要旨

日 時 令和4年7月22日（金） 10時00分～11時30分

場 所 甲府市役所本庁舎9階 9-2会議室

出席委員 西久保浩二委員長、田中由美副委員長、秋山育也委員、今井裕久委員、勝俣賢一委員、河野嘉孝委員、下平浩一朗委員、濱田哲一委員、豊前貴子委員、松本一雄委員、村松晴己委員

事務局 櫻林部長、依田商工振興室長、萩原商工課長、樋田商工課課長補佐、矢崎商工課課長補佐、市川商工課主事

### 次 第

#### 1 甲府市中小企業・小規模企業振興推進委員会

(1) 開会

(2) 委員について

(3) 報告

ア 意見書に対する報告について

(4) 議事

ア 甲府市商工業振興指針の改定について

イ その他

(5) 閉会

---

### (3) 報 告

#### ア 意見書に対する報告について

資料「事業実施状況調査票（甲府市中小企業振興推進委員会 意見書）」を事務局から説明。

### ○委員からの意見等

（委員長）③の未対応について、今後どう対応していくのか。特に「多様な販売チャネルの確保」は③の未対応が多い。③になった理由について確認したい。

（事務局）未対応となっているが、今後実施していけるように検討している。各担当課と連携して行っていきたいと考えている。

（委員）販売チャネルのところで、③の未対応になっているが、ふるさと納税課と連携して、東京ガールズコレクションでPRしていくことになっている。実際には何も行ってないわけではない。

(事務局) 東京ガールズコレクションに関する事業については、5月末に急遽決定をしたため、資料には反映されていない。宝飾業界と連携して一般の方にも広く周知していきたいと考えている。これを機に担当諸団体と連携していきたい。

(委員長) ③の未対応が未対応でなくなるようにしていただきたい。

(委員) 11月にもジュエリーウィークも行う予定である。その中でも、甲府市が主催で工房巡りをする予定になっている。すでに販路拡大のために事業は実施されているのではないかと。

また、働く環境整備について、結婚で退職する方は減ったが、子育てに伴い退職する人が増えている。働きながら、子育てができる環境ができるような支援をしていけばいいのではないかと。

(委員長) 子育てや介護と仕事を両立できるような支援が、女性の活躍のために継続就労は必要不可欠ではないかと。

(委員) 親の介護に伴い、退職する方もいる。

(委員) 子育てに重点を置きすぎているのではないかと。

(委員長) 山梨県は、女性の管理職比率が全く上がらない。山梨県の女性活躍の目標からも外してしまった。

(副委員長) 現場の女性も経営者だと2、3人程度しかいない。現場の女性スタッフの声を聴いても、自分の意見が経営側に通らないことが多い。経営側に女性の意見が言えるような環境を作る必要があるのではないかと。また、宝石学校の生徒も女性は5年以内に辞めてしまうことも多いことが問題だと言っていた。そういったことがない環境を作っていくようにしたほうがいいのではないかと。

(委員長) 経営者側への啓発活動も大切なのもかもしれない。③の未対応を①の実施しているに変えていけるようにしてほしい。

(委員) 女性は大事な戦力と考えている。育休制度はたっぷりつけてほしいと思っている。

(事務局) 働き方改革を進めているところではある。男性も協力して育休をとれるように職員課のほうでも進めている。また、経営者側への啓発活動についても風通しのよい職場環境づくりのため、効果的な施策を実施のため、参考にさせていただきたい。

(委員長) 市役所としての子育てと仕事の両立に関してはどうなっているか。

(事務局) 制度上は3年育休がとれるようになっているが、それぞれの家庭の事情に合わせて取得している。職場にも負担をかけないため、育休になった職員のかわりの職員を置くようにしている。

(委員長) 市役所のノウハウをアピールしていったら、経営者側にも伝えていくようにしてほしい。経営者への啓発活動のためにも経営者セミナーについては今年度中に実施していただきたい。

(委員) 女性活躍の項目について、子育ての関係で役職につけない方も多い。一概に管理職になるだけが活躍できる働き方ではない。柔軟な働き方について、啓発活動を行ってほしい。

(委員長) 都内の企業だと、育休後に仕事を辞めた方が3年以内に職場復帰をすれば、収入の8割程度が保証されるUターン制度がある。今はハローワークでもUターン制度を導入しているかを申告する義務がある。その制度を周知していけばいいのではないかな。

(委員) 現場では、1年間を通して働くことが子育ての関係で難しいこともある。職場復帰するとしても別の職場でも復帰できるような環境づくりが必要ではないかな。

(委員長) 仕事のあり方を柔軟にしていく必要がある。テレワークも新しい形として、介護や子育ての両立のためにもいいとされている。

(委員) 復帰しやすい環境づくりも重要ではないかな。

#### (4) 議 事

##### ア 甲府市商工業振興指針の改定について

資料1「甲府市商工業振興指針の策定について」、資料2「甲府市商工業振興指針の策定経過と位置づけ」、資料3「甲府市商工業振興指針の実施状況」を事務局から説明。

(事務局) 事務局の案を作るために意見を委員の皆様からいただきたい。

(委員長) 平成29年以降にも様々な社会現象があったので、どう変えていくのか考えていくということでのいいのかな。

(事務局) それで差し支えない。

(委員) 人材育成について、小中学生に対して市内産業を知る機会を創出するために商工業団体に補助金を交付するとあるが、市内にすごい中小零細企業があることをPRしてほしい。学校では就職に大手企業を進めることが多いので、先生や親御

さんにも伝わるように山梨県の素晴らしい企業のPRにつながるように教育委員会と連携してほしい。

(事務局) 商業高校と地元企業の就職のセミナーを実施したり、彫刻組合の方が小学校に訪問して啓発活動を行ったりしている。関係機関と連携して、甲府市内の企業のPRをしていけるように参考にしていきたい。

(委員長) 大学の進路指導でも東京の大企業の就職率が高いと、学生の応募倍率がよくなる傾向にあり、山梨県にいい企業があることが学生には届いていない。県内で働きたいと思う学生は多いが、どこがあっているかわからない学生が多い。学生と直接的にコンタクトをとれる場をつくるといいのではないかと。大学1年生にアンケートを取ると公務員になりたいという学生が多い、つまり県内にいたいという学生が多いのではないかと捉えている。

(委員) 学生が地元に戻ってこない割合が27%で、理由としては県内に大きな企業が14社と少ないからと言われている。銀行として、上場企業を増やしていきたいと思っている。東京プロマーケットという市場があり、そこまで費用も掛からず、手間も少ない。そこに上場できるように支援したいと思っているので、市として援助してもらうことはできないか。親御さんも上場しているかどうか気にしている方も多いため、可能であれば検討してもらいたい。

(委員長) 県内企業の資金調達や人材集めるためにもよいかもしれない。上場企業の誘致という形でもよいのではないかと。

(事務局) この場で意見が出ない場合もアンケートに意見を頂ければと思う。それを参考にたたき台を作っていきたいと考えている。

(委員) 周知の仕方が企業側に伝わっていないのではないかと。こういった形で現在おこなっているのか確認したい。

(事務局) 一般的には、甲府市ホームページや広報、産業支援サイトを活用している。他にも商工会議所の会報誌に掲載していただいたり、中小企業団体にちらしを配ってもらったりしているが、上手く届いていないという声はいただくことが多い。

(委員長) プッシュ型の周知が必要なのではないかと。忙しい方でも確認できるようなメディアがあればいいのではないかと。

(委員) 思いつかないが、周知については課題ではないかと。

(委員長) 社労士や税理士経由で情報を得ることができる企業もあるだろうが、周知の問題は今後のたたき台に生かしていただきたい。

また、時代に合わせた項目の追加については施策として増やすのか。

(事務局) まだそちらについては、検討中である。

(委員) アフターコロナに行くと思ったタイミングで変異株により、なかなかアフターコロナに移行ができない。飲酒習慣についても現在、日本でもワインの消費は減少傾向にある。コロナが終息した後、通常の生活にシフトしていくことができるのか。

(委員長) 生活環境が元に戻ったとしても、習慣は戻すことが難しい。新しいワインのプロモーションが必要なのもかもしれない。

(委員) ジュエリーも販路に関して、どうやって確立していくか悩んでいる。

(委員長) オンラインによる販路開拓であれば、グローバルに行えるのではないか。市場が回復した時にどうするかが課題であり、アフターコロナ、ウィズコロナの地場産業について検討が必要ではないか。

(事務局) 新しい生活様式を踏まえた取り組みとして、これからキャッシュレス決済を利用したキャンペーンを実施する予定である。それ以外も事業を検討していきたい。

(委員長) また、資料を見たうえで、ご意見があればアンケートでご記入いただきたい。

## イ その他（今後の流れ）

事務局より、指針の改定に関するアンケート及び今後のスケジュールについて説明を行った。

(委員長) 以上で議事を終了します。ありがとうございました。

以 上